

1. 西播磨 歴史の町に春を訪ねる 西播磨綾部山梅林と江戸の町並みが残る坂越港

綾部山古墳群 竜野市御津町 & 秦氏の西播磨進出地 坂越 赤穂市坂越 2010. 3. 14.



菜の花と梅 満開の綾部山 竜野市御津町



坂越湾内 秦河勝の墓がある生島 & 江戸期の町並み 坂越

「西播磨の海岸沿い 綾部山の梅林の梅が満開」と新聞が伝えている。また、つい先日 おいしく食べた西播磨名産「坂越の殻つきの生牡蠣」。どちらも 西播磨の海岸沿い 神戸から 車で加古川バイパスを抜けてゆけば、1時間ちょっとである。

「綾部山の満開の梅を見て、坂越の港での焼き牡蠣食べに行こう」と家内の車を充てにして 3月14日(日) 出かける。

すばらしい綾部山全体を覆う満開の梅とおいしい生牡蠣が目的なのですが、私にはもうひとつ目的がある。

この綾部山全体には 40 を超える古墳群があり、特に 39 号墳は 3 世紀 大和王権成立前夜のこの地の大王の最古級の古墳で、その墳墓形式など海を挟んで南にある阿波・讃岐そして大和との結びつきを示し、播磨が大和王権成立の重要な連合国のひとつであることを示す重要な古墳。

また、その綾部山の西側相生湾の向こうに関西では有名な「生牡蠣」の産地 赤穂市坂越がある。この地も古代から栄えたところで、古代には秦氏の播磨の根拠地として聖徳太子に使えた秦氏一番の有力者秦河勝の墓の伝承地であり、また江戸時代には 瀬戸内の天然の良好としてこの地の特産塩の廻船業で栄えた港で、今もその町並みを残す静かな港町として知られる。

綾部山は奥播磨から播磨平野を流れ下る揖保川の河口近くの海岸沿いの山 坂越もまた、播磨・吉備の境近く 海岸まで南北に伸びる山間を流れ下ってくる千種川の河口近く山々に接する海岸沿いの小さな港町。

古墳時代初期 吉備に近い西播磨が大和連合に連なる重要国になりえたのだろうか・・・

現代から見るとどうしても播磨の中心地はもっと東 古代播磨国府が置かれた現在の姫路周辺と考えるのですが・・・

2 月に阿波徳島の古代を見に行き 阿波特産の青石の積み石塚の古墳そして古代の鍛冶工場の痕跡を見てきたこともあり、同じ形式の古墳である綾部山 39 号墳の存在が気になっていました。 そんな折に 赤穂坂越が物づくりの渡来豪族 秦氏の播磨の根拠地とその背後にある山々の鉱物資源「金」が進出のねらいでないか・・・との話を聞きました。 秦氏が引き連れて渡来した工人には 大和葛城 葛城氏の鍛冶工場の中心となった韓鍛冶が数多く含まれている。この系譜が秦氏西播磨進出しゃではないか・・・と。

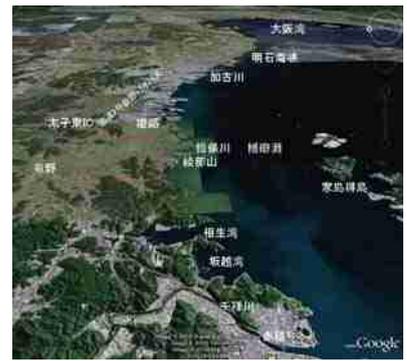
初期大和王権成立に活躍した播磨の力にやっぱり鍛冶技術があつたのではないかと・・・と。

そんな 古墳時代の鉄の痕跡が見つかるかもしれないと思いつつ、綾部山の満開の梅と菜の花 そして 周囲の山に包まれた古い町並みの残る坂越と西播磨の春を楽しんで帰りました。もちろん 坂越の生牡蠣も・・・



1. 菜の花と梅満開の綾部山 観梅 walk

2010. 3. 14.



山腹には満開の梅 山麓には菜の花畑が広がる綾部山 2010. 3. 14.

3月14日朝 神戸を出て 国道2号線を西へ加古川・姫路バイパスを抜けて、40分ほどで太子東のICを出る。綾部山へは 揖保川を越えてからバイパスを出てから南の海岸沿いへ出るのが近いのですが、日曜日で渋滞中のバイパスを避けて 南へ網干の街中から海岸沿いの浜街道国道250号に出てこの道を西へ。



直ぐに揖保川に架かる橋からは左手浜側に綾部山の山並み

が見えてくる。綾部山梅林・新舞子荘の標識を見て左手の浜側に曲がると田園地帯になり、その向こうに見える綾部山へ。何度か来たことがあり、見慣れた風景とっていると以外にも 綾部山の山麓はまっ黄色の菜の花畑。

神戸近郊では最近見られなくなって、今年は淡路に行かないとみられないかも・・・と思っていたところ。思わずラッキーと。綾部山の山腹一杯に梅林が広がっているのですが、梅の花は小さく色が淡いので枝と一緒にって まだ花があるのかよくわからない。でも 次から次へと車が梅林を目指すので、梅の花も見られそう。

まず 菜の花畑に入って春の香りをかぎたいと菜の花畑の直ぐ横の駐車場に車を入れる。



綾部山の北側山裾に広がる菜の花畑



竜野市御津町黒津 2010. 3. 14.



春の香りが広がる 綾部山の北側山裾に広がる菜の花畑

竜野市御津町黒津 2010. 3. 14.

菜の花の香りに満足して、綾部山梅林へ。ほんのわずかの間に次々と車が入ってきて、もう駐車場も一杯に。

正面に広がる綾部山の山腹から頂上まで全体が梅林で その中に 40 を超える古墳群が点在する。

今回は満開の梅ばかりでなく、この古墳群の中にある最も古い古墳で大和王権の成立に繋がる播磨を示したとされる 39 号墳の場所へ行きたいと出かけてきたのですが、綾部山梅林の横を登る道路の途中だと調べただけで、その位置の情報なし。

「正面の梅林へ行く道ではなく、綾部山の東端から新舞子荘へ登ってゆく途中。 確か案内板あったと思うが、道路の下で何も無い」と駐車場の地元の人に教えてもらい、梅林に行ってから、綾部山 39 号墳へ行くことにする。

梅林へは JR 網干・竜野駅からもバスがでていて、満開の梅を見る人で一杯でした。



綾部山梅林 正面の入口 満開の梅を見る人たちで一杯でした 2010. 3. 14.



綾部山梅林 2010. 3. 14.

播磨灘に面して東西に伸びる丘陵地 綾部山の北側山腹全体に梅林が広がり、この山腹斜面に観梅の遊歩道がつけられ「ひとめ2万本」と言われる見事な盛りを楽しめる。 また、山頂部の尾根筋からは 東に播磨工業地帯・姫路から龍野の町並みや田園が連なる播磨平野 眼下に広がる播磨灘には 国立公園新舞子浜の海岸、瀬戸内の家島群島、小豆島、淡路島等が眺められ、まさにこの地が四国へたどる海の道と東西に伸びる瀬戸内の海の交差点であることを示す。また、この綾部山には5～7世紀の古墳 30 基が散在しており、梅林の中の遊歩道から、正玄塚古墳など幾つかの古墳が眺められる。

● 綾部山梅林 満開の観梅 walk 写真アルバム



播磨 龍野市御津町 綾部山梅林 この山腹には綾部山古墳群が点在する 2010.3.14.



播磨 龍野市御津町 綾部山梅林 この山腹には綾部山古墳群が点在する 2010.3.14.

奥に播磨灘に浮かぶ男鹿島・家島・(坊勢・西島)の家島群島が見えていました



播磨 龍野市御津町 綾部山梅林 背後に本竜野から姫路の工業地帯までの田園や市街地が遠望 2010.3.14.



播磨 龍野市御津町 綾部山梅林 眼下に御津町黒崎の菜の花畑・背後に姫路の市街地が遠望 2010.3.14.



古墳時代後期の円墳 正玄塚古墳(綾部山 28 号墳)



御津町教育委員会

綾部山古墳群第二八号墳であるこの正玄塚の名称は西園府誌黒崎村條項中に見られない四角で正奥深く幽な状であること玄から古来より村人がかく呼んできたものである。この正玄塚は西園を円筒形で垣を構成し揖保川原より手廻で運んできた円塚を貫きつめ土砂の流失を防いだ構造が特色である。

正玄塚



綾部山 36 号古墳の上にかわいいお地藏さん 2010.3.14.



播磨 龍野市御津町 綾部山梅林 2010.3.14.



播磨 龍野市御津町 綾部山梅林 眼下に御津町黒崎の菜の花畑・背後に姫路の工業地帯が遠望される 2010.3.14.



播磨 龍野市御津町 綾部山梅林 眼下に御津町黒崎の菜の花畑・背後に姫路の工業地帯が遠望される 2010.3.14.



綾部山 頂上部の尾根筋より 北側の綾部山古墳群の碑周辺を眺める 2010.3.14.



綾部山 頂上部の尾根筋 綾部山古墳群の碑周辺 2010.3.14.

2. 綾部山 39 号墳を訪ねる 大和王権「大和・阿波・讃岐・播磨」の連合を示す播磨の重要な古墳



39号墳が道路下に埋まっている黒津から新舞子へ向かう道路の坂 道の左脇に案内板があった

綾部山 38 号墳は綾部山の一番海岸よりの南端。 菜の花畑から見ると左手の黒津集落に入る手前を右へ斜めに綾部山へ坂を登り、尾根筋に出て、「く」の字にターンする坂の途中海側の崖に接する場所にありました。 ちょうど「く」の字の山側には老人ホームが建っていました。 そのまま坂を上りきるとそこからは播磨灘に浮かぶ家島群島・その後ろに小豆島がながめられ、この地が 瀬戸内海を東西に結ぶ海路と島伝いに四国へ結ぶ海路の十字路に当たっていることがよくわかる。

交通路・船がまだ発達していない古墳時代初期 交通路の要衝であったことがよくわかる。



綾部山 39 号墳の位置 黒部集落から新舞子荘へ綾部山の尾根筋へ東から西へ登ってゆく道を尾根の先端部へ登った所

瀬戸内海を眺望する海岸沿いの小高い尾根上(標高 27m)に立地。南側の海を見渡すと、向こうには大阪・淡路島・徳島県・香川県・岡山の牛窓が見え瀬戸内の海上交通を強く意識してこの場所に造られている。ここに葬られた人物(首長)は、まだ山陽道が整備されていなかったこの時代、重要であった瀬戸内の海上交通に関与した人であったと考えられる。

綾部山 39 号墳 の 概 要 綾部山 39 号墳の現在 海岸沿いの綾部山の尾根筋を登る道の下になっている

綾部山 39 号墳現地説明会資料 2003 年 3 月 22 日 御津町教育委員会 & 現地案内板より

<http://www.gensetsu.com/03ayabe39/doc1.htm> を整理

綾部山 39 号墳(墓)

綾部山 39 号墳(墓)は綾部山山地で 39 基目に発見された遺跡です。平成 15 年 1 月～3 月、平成 15 年 7 月～10 月の 2 度にわたり、高神綾部山線道路改良工事に伴う本発掘調査が行われました。

綾部山 39 号墳(墓)は瀬戸内海の河口、瀬戸内海を眺望できる海岸沿いの小高い尾根上(標高 27m)に立地しており、南の海側から見られることを意識して造られました。形状は内丘を基とした多角形状に石列をめぐらし、墳域はまだ、南斜面に伸びるものと推定されます。

埋葬施設は、竊形の本棺を竪穴式石槨が囲み、さらにその外側にも川原石を積み上げた形跡の石囲い構造をしています。

この墳墓は讃岐・阿波地域に見られる墓制で、大和のホケノ山古墳にも認められます。遺物では、年代が特定できる土器はありませんでしたが、墳域から採れた土器が出ています。また副葬 されていたのは、中国製の陶文土器(伏見三神三趾鏡・碧玉製の管玉・良符の仕上げ用の磁石・西部瀬戸内地方の特産をもつヤリガンナで、ヤリガンナ以外は意図的に埋納された状態で発見されました。弥生時代末期、瀬戸内海一帯では鏡や玉等の副葬品を塚す祭祀が行われていたようです。

このようなことから、綾部山 39 号墳(墓)は邪馬台国があったとされる三世紀前半の古墳(墳丘墓)と考えられます。この遺跡の被葬者は、讃岐・阿波地域と深い繋がりを持ち、更に畿内地域の首長とも密接な関係をもっていた人物であったと考えられます。

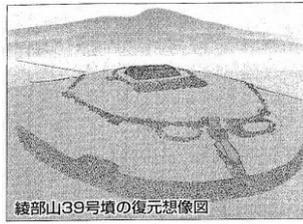
平成 16 年 3 月
御津町教育委員会

墳形は円形を意識した多角形で墳丘の裾部に列石を巡らし、南北約 15m 以上、東西 10m、高さ約 1.7m。中心部の埋葬施設は箱形木棺を竪穴式石槨で覆い、その周囲を河原石を積んで囲む特徴的な形態を示す。竪穴式石槨は割石小口積みで壁体をほぼ垂直に積むもので、木蓋と推定。この石槨部の石囲い施設は庄内式併行期に讃岐や阿波地域で発達したもので、古墳出現期の徳島県西山谷 2 号墳(黒谷川Ⅲ式)の墓壇の「積み石」などにその影響が認められます。

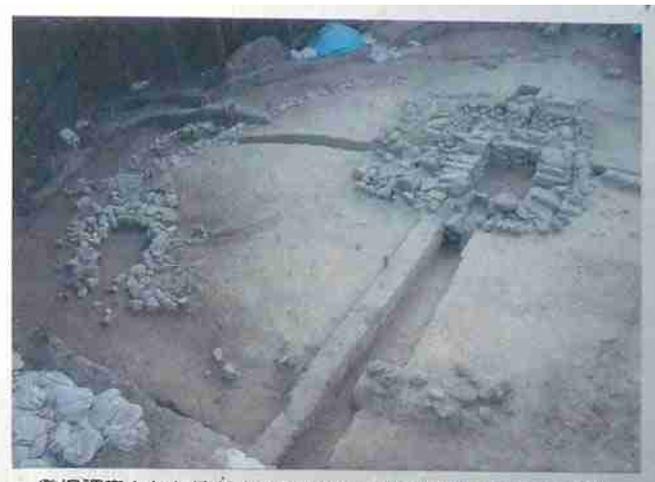
● **墳丘の形状**

墳丘にはハッキリとした高まりがなく、直径 10～11m のいびつな円形状の列石(20 センチ程度の川原石と割石)が外側をまわっていて、これが墳丘の裾(すそ)。また、墳丘を築造するための盛土は、最高でも厚さ 10 センチ程度で、列石のところどころでその盛土はなくなるようである。墳丘の盛上の大きさや墳形にはあまりこだわらず、ハッキリとした区画をしない弥生時代の墳丘墓の要素を強くもっているといえる。

もう一つ、忘れてはならない重要なことは、現在の道路部分である北西側に、突出部(前方部?)をもつ可能性があり、前方後円形になる可能性が考えられる



● **埋葬主体部**



発掘調査された綾部山 39 号墳(墓)の完掘状況(東から撮影)

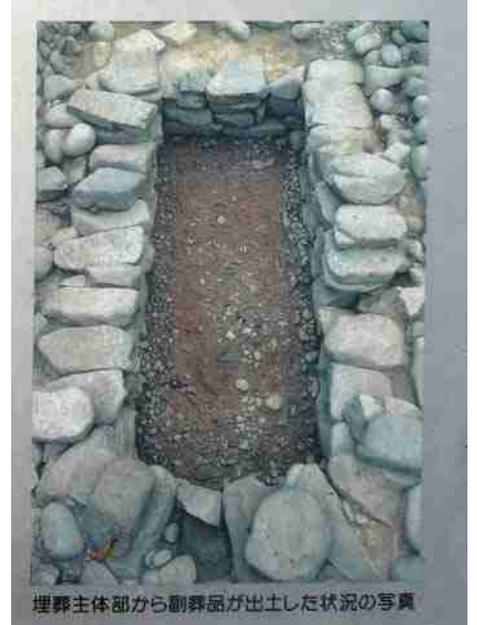
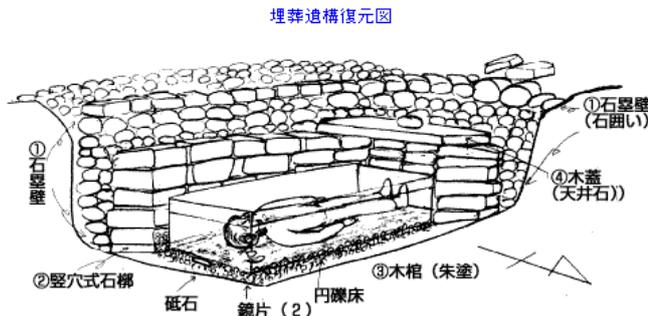
東西 4.6m、南北 3.5m の石で囲まれた隅丸方形をしている埋葬主体部は『石囲い(石罌壁)・竪穴式石槨・木棺』の 3 重の構造で、『最古の古墳』として有名な奈良桜井市の『ホケノ山古墳』(3 世紀中頃)と類似。

『ホケノ山古墳』の構造は『石囲い・木槨・木棺』になっており、石槨と木槨とが違うだけで、この遺跡と非常に似た構造になっている。『ホケノ山古墳』の『石囲い木槨』構造に対して、綾部山 39 号墳(墳丘墓)は『石囲い石槨』と言え、このような 3 重構造は、兵庫県で初めての発見で、岡山県でもまだ見つかっていない。

● 石囲い(石罌壁)

『竪穴式石槨』を石で囲む遺構を『石囲い』または『石罌壁』はほとんどが川原石で、長軸を中心部方向に向けて、石をもたせかけるように丁寧に整然と積んである。やや外側に傾斜して構築しているために、石槨との間に出来るスペースには、川原石を詰めている。『石囲い』という構造は瀬戸内海沿岸各地などで、弥生時代後期から古墳時代初めにかけての墳丘墓や古墳に見られる特有のもので、四国の阿讃地方(阿波・讃岐)

で発達したものと考えられており、綾部山 39 号墳(墳墓)はその文化を取り入れたものである。



● 竪穴式石槨

『石囲い(石罌壁)』で使用されている石はほとんどが川原石であるが、竪穴式石槨に使用されている石は角が取れた板石。右槨内側の規模は、長さ約 255cm・東小口幅 95cm・西小口幅 90cm・板石 6 段積みと考えると深さ約 70cm。側壁の断面形状はほぼ真っ直ぐに立ち上がる状態でどちらかといえば外に少し広がっているように見え、弥生時代の竪穴式石室(槨)の特徴をもっている。

● 木棺

石槨床面には 2 センチ～8 センチの小円礫が敷かれている。礫床が平になっていることから、棺は箱形木棺と考えられ、木棺のあった場所には朱が付着し、痕跡から棺の大きさは長さ約 190cm・東小口幅約 80cm・西小口幅約 76cm。東側が幅の広いことや、副葬品の位置から考えると頭位は東向きに葬られていたと推察できる。

● 副葬品



画文帯環状乳三神三獣鏡

副葬品として鏡・鉄製品・砥石が出土。被葬者の頭部右横付近には『舶載鏡』と思われる割れた鏡がボロボロの状態です。この鏡の種類は『画文帯神獣鏡』と思われる。

直径は 10.4cm で『ホケノ山古墳』など、ほかの遺跡の出土例と比べても、かなり小型。また『画文帯神獣鏡』は権現山 51 号墳で出土

した三角縁神獸鏡よりも、古い時代の鏡と言われている。

鉄製品は棺内の被葬者左足付近に長さ 17cm のものが 1 点見つかっている。この鉄製品はヤリガンナかモリ・ヤスの可能性。次に砥石があります。棺外の頭上部に置かれてあった。



画文帯神獸鏡



砥石



鉄製品

副葬品 出土状況

● 上部構造

石槨の上部構造を推察すると、今回の調査で天井石にできる大きさの石が 1 枚も出てきていないこともあり、木蓋であったと考えられている。また、その上部には小さな円礫を敷いてつくった『隆起小円礫堆』か°あったものと思われる。コンテナ約 20 箱分という大量の小円礫が出ているからで、中には朱が付いている円礫が見つかっており、上面を粘っていたと考えられる。

また、この土中から讃岐系の土器片 1 点と在地の土器片 2 点が出土。播磨地方の特徴ですが、葬送儀礼に讃岐地方から運ばれてきた土器が使われていたことは注目に値します。

綾部山 39 号墳(墳墓)は 3 世紀、『邪馬台国の卑弥呼』の時代のもの。この遺跡の被葬者は、西隣の吉備地方と連合するのではなく、海を隔てた、阿讃地方と連合していたと考えられる。〔阿讃播連合〕。

この時代吉備では、特殊器台・特殊壺という土器をお供えしてお祭りを行っています。播磨の墳丘墓からは吉備の土器が出土しないことや阿波・讃岐で考え出され発達していったものと考えられる『石囲い』を採用している。本墳から讃岐の土で作られた土器が出土し、これは葬式に讃岐からはるばる海を渡って土器を持ってお参りに来たと考えられること。

また、この遺跡は限りなく、弥生時代の墳丘墓の作り方によって造られています。ホケノ山古墳の影響を受けて造られたのか！それとも逆に影響を与えた墳丘墓か！つまり言い換えると限りなく弥生の

要素を備える古墳か！それとも、弥生時代最後の墳丘墓か！時代の境目に位置するとても貴重な数少ない遺跡である。

この項 綾部山 39 号墳現地説明会資料 2003 年 3 月 22 日 御津町教育委員会を整理

<http://www.gensetsu.com/03ayabe39/doc1.htm>



綾部山 39 号墳現地 2010.3.14.

3. 古代秦氏の播磨進出地 港町「坂越」walk 赤穂市坂越

西播磨名産「牡蠣」& 古い港の町並みが残る坂越



砂越湾 湾内に幾つもの牡蠣養殖の筏が見える



坂越湾に浮かぶ鍋島と牡蠣の養殖筏



坂越湾の中央 坂越の街



伝秦河勝の墓所がある生島



坂越湾の中央 背後の山が迫る港の直ぐ後にそっくりそのまま残る江戸期の坂越の町並み 2010. 3. 14.

江戸時代にタイムスリップ この地の塩そして各地の産物を運ぶ廻船業で栄えた様子がそのまま残る

昼を過ぎ 13 時過ぎであるが、坂越で水揚げされた牡蠣が食べたくて昼食をとらずに綾部山から砂越に向かう。

綾部山からそのまま 国道 250 号を海岸沿いに西へたどって行けばそのまま 海岸の景色を眺めながら 相生に出られるのですが、道が狭くまた室津に向かう行楽の車で一杯なので一旦北の国道 2 号線まで戻り、国道 2 号線を西へ相生へ。そこから赤穂への案内標識で 2 号線と分かれて 南へ相生の街中を抜けて再度 250 号線に入って相生と赤穂の境の高取峠を山越えをして、千種川の土手に出るとまもなく砂越。綾部山から約 1 時間弱。

ここは両側を山に挟まれた狭い川筋で、地図によると坂越の街や港は川の南側川に平行する山並みを越えた向こう側。



ここからは砂越湾も町並みも見えず、坂越の街の情報がよくわからず、とりあえず、川の北側の山裾にある JR 砂越駅へ行って坂越の情報をもらう。

日曜日の午後 人影のない静かな駅であるが、駅前に坂越の散策マップがあり、駅員の女性から、坂越の町並み案内地図をもらい、「牡蠣」は海岸沿いにある海の駅へ行けば、そこで牡蠣を焼いて食べられると。

まず、「牡蠣」を食べて それから 江戸期の町並みを歩いて、本で調べた秦河勝を祭る大避神社へ。その後 坂越湾ぞいにあるという かつての金鉱山跡を訪ねようと。



JR 坂越駅と駅前にあった坂越の町並み散策マップ

JR 坂越駅から 元来た道 坂越橋を渡って、そのまま山に空けられたトンネルを抜けて一気に海岸へ向かう。

(直ぐ横に 山と山の間に伸びる町並みを抜けて 海岸に出る旧道があり、歩くのにはこちらがベター)

トンネルを抜けるとぱっと 直ぐ前に海が広がっている。 山に周りを囲まれた穏やかな天然の良港 坂越湾である。



山の間を抜ける坂越の旧道



坂越橋



坂越橋をまっすぐトンネルで街に出る

千種川にかかる坂越橋を渡って まっすぐトンネルをつき抜け目と砂越湾 坂越の港街へでる



トンネルを抜けるとぱっと坂越湾が眼一杯に広がる 2010. 3. 14.

参 考 西播磨 坂越と秦氏が浮かび上がった古代西播磨の鉱物資源

ふとした疑問 西播磨の鉱物資源が古代播磨の勢力の源泉かもしれない・・・



西播磨の海岸沿いの山から見る瀬戸内海 左: 綾部山より播磨灘に浮かぶ家島 右: 坂越湾の生島



梅満開の綾部山より播磨平野遠望 左: 北東側 竜野から姫路 右: 南東側 播磨灘

古代 大和王権の成立に連合国として大きな働きをしたという播磨国。また 境を接する吉備よりも瀬戸内海をはさむ阿波・讃岐とも密接な関係を築いていたという。播磨が主要連合国となりえた源泉は何なんだろうか・・・。

播磨が瀬戸内海交通路の要衝の地であり、この播磨から吉備にかけての海岸沿いで塩生産が重要な特産品であったが、それだけで、西播磨が大和王権の連合国に加わる勢力になりうるだろうか・・・

播磨の中心を流れ下る揖保川の河口域に位置し、大和王権の成立期3世紀後半大和と阿波・播磨の結びつきを示す綾部山39号墳がある綾部山古墳群やそのすぐ北「卑弥呼の鏡」と呼ばれる「三角縁神獣鏡」が出土した権現山51号分などが見つかる権現山古墳群など古代播磨の中心地 竜野市旧御津町の海岸部。



そして この海岸部と狭い奥へ入り組んだ相生湾を隔てて西側にある千種川の河口の静かな港町「坂越」が古代の渡来氏族「秦氏」の有力な進出地のひとつで、聖徳太子に重用された秦河勝の墓がこの地にあり（伝承地）、しかもこの地周辺の山から金鉱山が発見されたという。

坂越の港の背後を「コ」の字に取り囲む山々の端のところ最近まで操業していた「金」の「大泊鉱山」跡があり、また、この坂越から北への山中には 上郡町の旭日金山など鉱物資源帯であり、また、綾部山の北には金湧山の地名が残っている。この周辺に古くから鉱山資源があった可能性がある。大泊鉱山は昭和に発見され、操業は10年ほどで 古代とは直接の結びつきはない。）

秦氏といえば 渡来の「ものづくり」氏族として 各地に進出し殖産開拓に大きな功績があった氏族。

古代 西播磨にある「金・鉄」等の鉱物資源開発が 塩と並ぶ重要特産品として 西播磨に大和と結ぶ有力豪族が生まれ基となったのか・・・

「 古代 物づくりの渡来氏族の秦氏が西播磨にも拠点を持ったのも、
確心はないが、この地域で産する鉱物資源開発が目的だったかも・・・。

西播磨の海岸線に数多く残る古墳時代の遺跡はこの地の鉱物資源とかかわっていた鉄の道の痕跡かも知れぬ」
との思いが ふっと頭に浮かぶ

古代大和王権の成立期に播磨の国が有力な連合国のひとつとなったのはなぜか？ しかも 吉備に近い西播磨の海岸沿いの海岸がその中心に成りえたのか？ もっと立地条件のよい場所が数多くあるのに・・・ 不思議である。



坂越の港を取り囲む山 その南西側先端部に金鉾山があったという

● 日本書紀に書かれた秦氏と「鉄」 & 物づくりの渡来氏族の記事

百済または新羅から来といわれ6世紀頃に活躍した有力渡来氏族。

当初その根拠地は葛城にあり、その後京都太秦に進出し、広隆寺を興し、淀川・桂川・鴨川改修をはじめ、兵庫川西多田金山開発・酒や能楽・機織の祖等々地方各地に広がり各地の殖産開拓を成し遂げた渡来氏族で、京都 松尾寺や大酒（避）神社をその氏神とする。もっとも有名な人物が聖徳太子に使えた秦河勝で広隆寺を興し、平安京造営の基を造ったとも言われる。

また、九州 豊前国 宇佐八幡宮もまた秦氏と関係深い神社である。

『日本書紀』に記述された秦氏の祖といわれる弓月君の朝鮮半島からの渡来。

日本書紀に次のような記述は次のような記述がある。

応神天皇十四年弓月君が百済から来て、「私の国の百二十県の人民が帰化を求めています。しかし新羅人が拒んでいるので、みな加羅国に留まっています。」と天皇に奏上した。

天皇は葛城襲津彦（かつらぎのそつひこ）を遣わして、加羅国の弓月の民を召されたが、三年を経ても襲津彦は帰らなかった。

応神天皇十六年、天皇は平群木菟宿禰と戸田宿禰に精兵を授けて、「襲津彦が帰らないのは、きっと新羅が邪魔をしているからだ。お前達は速やかに赴いて新羅を撃ちその道を開け。」

と命じ、加羅に遣わした。木菟宿禰らは精兵を進めて新羅の国境に臨んだ。新羅王は恐れて、その罪に服した。二人は弓月の民を率いて襲津彦と共に帰ってきた

この葛城襲津彦が連れ帰った渡来人の中に韓鍛冶が数多く含まれていて、葛城で鍛冶工房を興したといわれている。

参照 和鉄の道 金剛・葛城 山麓 葛城氏の鍛冶工房「忍海」

渡来人が住み鉄鍛冶の技術を伝えた古代「忍海」 <http://buffalonas.com/mutsu/www/dock/iron/5iron05.pdf>

九州北部 豊前には「秦王国」があったといわれる秦氏のもうひとつの根拠地で 宇佐八幡神社の八幡神を一番最初に祀った辛嶋氏は「秦氏」といわれ、鍛冶神の伝承が残る。そして、この豊前英彦山の山麓は古代からの銅山であり、近畿の多田銅山（金山）にも秦氏の足跡が色濃く残る。また 炭焼長者の伝承の地でもある。

秦氏というと養蚕・機織や酒醸造技術と広隆寺造営と能楽の祖という側面しか知りませんでした。銅・鉄など金属の鍛冶技術にも深くかかわっていた。

古代 鉾山開発は国の大きな力。奥播磨は古代から有数の「鉄」の産地である。

そこから流れ下る千種・揖保川の河口にこの地の有力豪族がその中心地を形成しているとのみかたもできるが・・・。

あまり意識していなかったのですが、この西播磨の海岸部に大きな勢力を持った豪族も 阿波・徳島でも見えてきたごとく、その勢力の源に鉾山資源開発があったのか・・・と。

ふっとそんなことを考えて 「秦氏」の足跡がある坂越 そしてまた 阿波・讃岐との連合を色濃く残す卑弥呼の時代の綾部山 39 号墳もしっかり見たいと出かけました。

3.1. 沖で養殖される牡蠣の加工でにぎわう坂越漁港 2010. 3. 4.

坂越湾の入り口には牡蠣養殖筏が並んでいるのが見える



牡蠣の水揚げでにぎわう 坂越漁港 2010. 3. 14.

沖の養殖筏から水揚げされる牡蠣がひっきりなしに ベルトコンベヤーに乗って隣接する加工場へ運ばれ、選別加工されて 各地へ出荷されてゆく。牡蠣殻はまた 専用船にベルトコンベヤーで運ばれ処分場へ運ばれるすべて 自動であるが、どうも 剥き身だけは 人の手のようだ。



牡蠣の水揚げでにぎわう 坂越漁港
 沖の養殖筏から水揚げされる牡蠣がひっきりなしに
 ベルトコンベヤーに乗って隣接する加工場へ運びこまれる。
 2010. 3. 14.



30分ほど待つ 海の駅で焼き牡蠣にして味わう そして 殻つきの牡蠣を土産にも

3.2. 江戸期の港町がそっくり残る 砂越の町並み

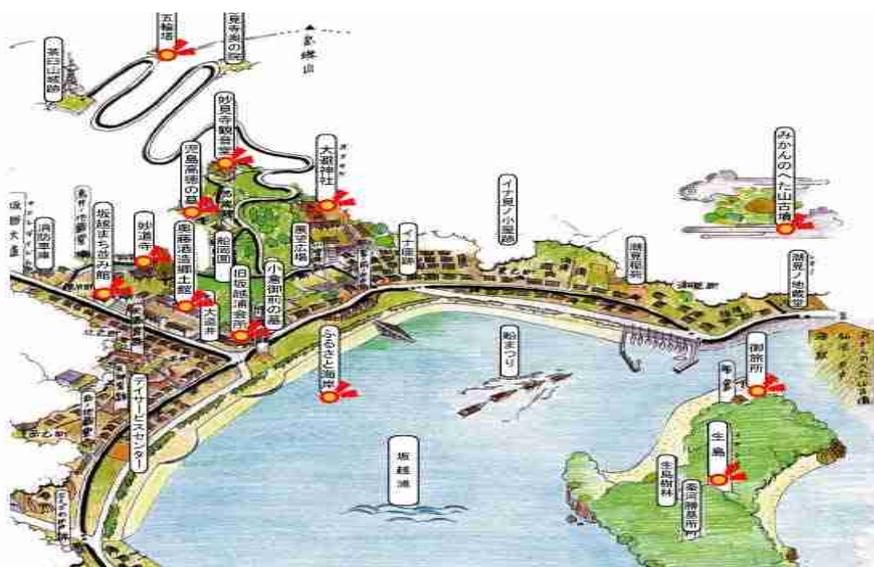


坂越湾の中央に広がる港町「坂越」の町並み 2010. 3. 14.

坂越漁港からもう一度坂越湾の中央部 坂越の町並みへ戻る。坂越湾に沿って走る道に整備された街の駐車場があり、その後ろに「逆」字に山裾にへばりついて坂越の古い町並みが広がっている。

瀬戸内海から弧状に入り組んだ湾内の中央部に生島がある天然の良港。この周辺の「塩」を中心にした赤穂藩の商港として 廻船業で江戸時代には大いに栄えたという。

また、この町並みの背後の山の山裾には 秦河勝を祭神とする大避神社があり、神社の創立時期は明らかではないが、千種川流域を開墾したとされる秦河勝が大化3年(647年)に没し、地元の民がその霊を祀ったのが始まりとされている。また、正面の坂越湾に浮く生島の頂上部には古い円墳があり、秦河勝の墓所とも傳承されている。秦氏の進出地の傳承を持つところは日本各地に広がっており、この坂越もその傳承地のひとつ。



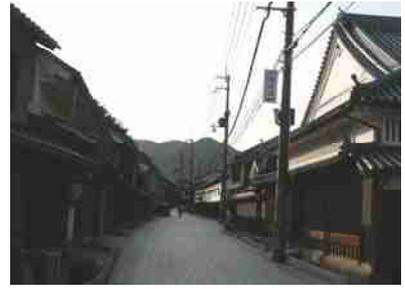
坂越の街の背後の山裾にある秦河勝を祀る大避神社

この坂越に秦氏進出の痕跡があるのは子の西播磨の山に鉱物資源があったためではないか・・・。

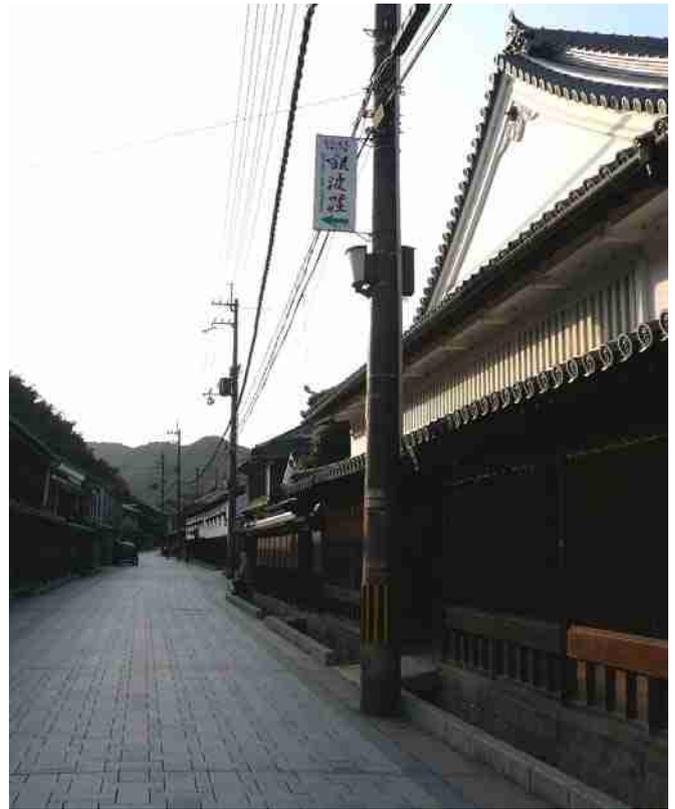
さらにそれをたどると播磨の国が初期大和王権を成立にかかわる連合国となった力の源泉もこの西播磨の鉱物資源ではないか・・・と。 その痕跡が今に残る秦河勝傳承であり、古くから鎮座する大避神社なのかもしれない。

そんなことを 頭に描きながら 今に残っている江戸期の古い坂越の町並みとその守り神 大避神社をたずねました。

● 江戸期の古い町並み 坂越



港の直ぐ後 山裾にそっくりそのまま残る江戸期の坂越の町並み
この地の塩そして各地の産物を運ぶ廻船業で栄えた様子がそのまま残る



● 秦河勝を祭る大避神社



坂越の街の背後の山裾にある大避神社 2010. 3. 14.

境内からは街の向こう坂越湾に浮かぶ祭神秦河勝の墓がある生島が見晴らせる



能・舞楽の祖といわれる秦河勝 絵馬堂には船絵馬と共に舞楽・能の祖を祭る絵馬が数多く奉納されている

坂越の町の中央にある駐車場のところからまっすぐ北へ家並みの間を山裾に向かう石畳に整備された参道と行くと石の鳥居があり、その向こう石段の上に神門がみえ、その奥の境内に秦河勝を祭る本殿がありました。立派な神社でびっくり。毎年10月に行われる大避神社の「船祭り」は江戸時代初期からの歴史を持つ祭礼で、瀬戸内海三大祭りの一つという。境内からは 坂越湾が見渡せ、街の直ぐ上に 秦河勝の墓がある生島が浮かぶ。 また、左手湾の外れの山腹には昭和の金山ではあるが、大泊鉱山跡がある。 秦氏がこの地に進出したのも、この海岸まで 吉備・播磨国境を南北に連なる山地の鉱物資源だったのだろうか・・・

今まであまり頭になかった秦氏の鍛冶技術についての足跡。 葛城氏と共に韓鍛冶の技術を継承広める一翼を秦氏も担っていたのかも知れない。その足跡が西播磨・坂越地域の鉱物資源開発に残っているのかもしれない。播磨というと奥播磨 粟粟・千種の「鉄」ばかりに頭がいましたが、播磨海岸沿いにある古代初期の古墳群もまた鍛冶の痕跡であるのかも知れない。絵馬堂には船絵馬と共に舞楽・能の祖を祀る絵馬が数多く奉納され、秦氏が数多くの渡来人を引き連れてやってきて、諸国で数多くの技術・芸能を伝えた痕跡と思われる。 本当に近くに居ながら 知らなかった砂越の歴史です。

3.3. 坂越湾の西側へ回りこんで 金が出たという大泊鉱山跡を探す

2010. 3. 4.

昭和になって発見された金鉱山 大泊鉱山 操業は10年ほど



坂越大泊鉱山があった坂越湾の西側 左端の山の中腹が鉱山跡



坂越大泊鉱山跡への入口 現在立ち入り禁止の札がかかり中へ入れなかった (写真はインターネットより)

坂越湾の中央から 湾に沿ってぐるりと湾の西端へ回りこんでゆく。この湾の西側部分には海岸に沿って大塚製菓の建物が建ち、その背後の山の中腹が昭和の時代に金を産出した鉱山跡。

地図にもしっかり鉱山跡のしるしがあるのですが、現在既に廃鉱になっていて、鉱山跡への葉入口の道には立ち入り禁止の札と車が並べられていて中に入れなくなっていました。

非常に短期間の鉱山で しかも昭和の鉱山跡なので、古代と直接の結びつきはありませんが、この坂越湾の背後の山で「金」が出たのは事実のようだ。 また、この坂越から北に続く上郡町には やはり昭和年代まで操業していた金・銀・銅を産出した旭日鉱山がある。

秦氏には今まであまり頭になかった鍛冶技術の足跡が色濃く残る。

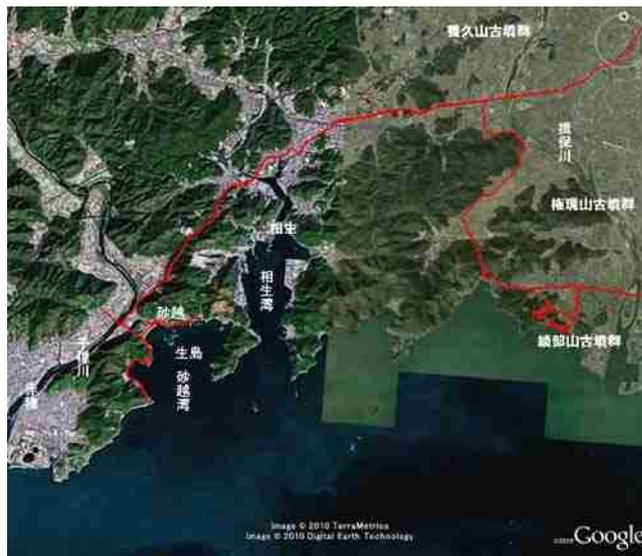
葛城氏と共に韓鍛冶の技術を継承広める一翼を秦氏も担っていた。

その足跡が西播磨・坂越地域の鉱物資源開発に残っているのかもしれない。播磨というと奥播磨 宍粟・千種の「鉄」ばかりに頭がありましたが、播磨海岸沿いにある古代初期の古墳群もまた鍛冶の痕跡であるのかも知れない。



4. 西播磨の春を訪ねる まとめ 梅・菜の花満開の綾部山 & 江戸の町並みが残る赤穂・坂越

ふっと読んだ本に秦氏の播磨の足跡・秦氏と鉱物資源の関係を
 知って 春 満開の梅と菜の花の綾部山 そして牡蠣と江戸の町並みが残る赤穂・坂越と西播磨の春のwalk が楽しめる
 とやってきましたが、ポカポカ陽気にキラキラ輝く播磨灘と浮島の景色も加わって 楽しい播磨の春が楽しめました。本
 当に 西播磨に古代からの大きな鉱物資源地があったのかはよくわかりませんが、そんなロマンを描いてもたのしいな
 あ・・・と思っています。 神戸からの春の香り発信です。



夕日をバックに神戸への帰路で

2010. 3. 14. By Mutsu Nakanishi



左: 綾部山より播磨灘に浮かぶ家島 右: 坂越湾 坂越漁港より見る家島群島小豆島
 西播磨の海岸よりみる春の瀬戸内海 播磨灘



西播磨 家島群島が浮かぶ播磨灘海岸 梅満開の綾部山 竜野市御津



満開の菜の花畑 綾部山の北山裾 竜野市御津町黒津 2010. 3. 14.



古代には 物づくりの渡来氏族 秦氏の進出地 江戸期に繁栄した赤穂藩の商港 坂越の町並み 2010. 3. 14.